

小 売 業 55 企業 (回答率 100.0%) の調査結果です

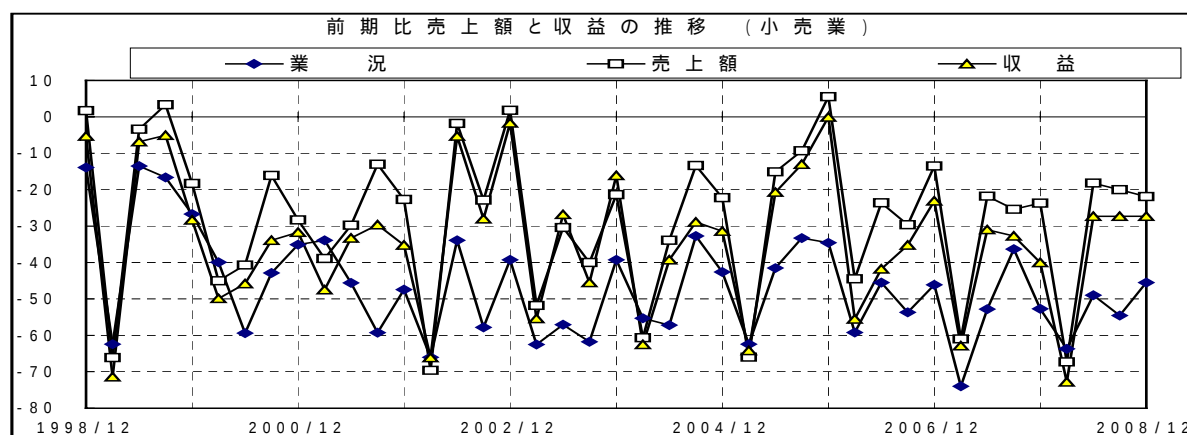
□ 景 況

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-49.0	-54.6	-45.5	-65.5
売上額	-18.2	-20.0	-21.9	-65.4
収益	-27.3	-27.3	-27.3	-61.8

今期の業況判断DI値は 45.5 と、前期比 9.1 ポイント改善したが、過去 10 年間同期の中では 4 番目に低い水準となった。地区別にみると、前期比三石、様似、広尾地区が改善し、浦河、静内地区が横ばい、えりも地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 21.9

で前期比 1.9 ポイント低下し、収益は 27.3 で前期比横ばいとなった。

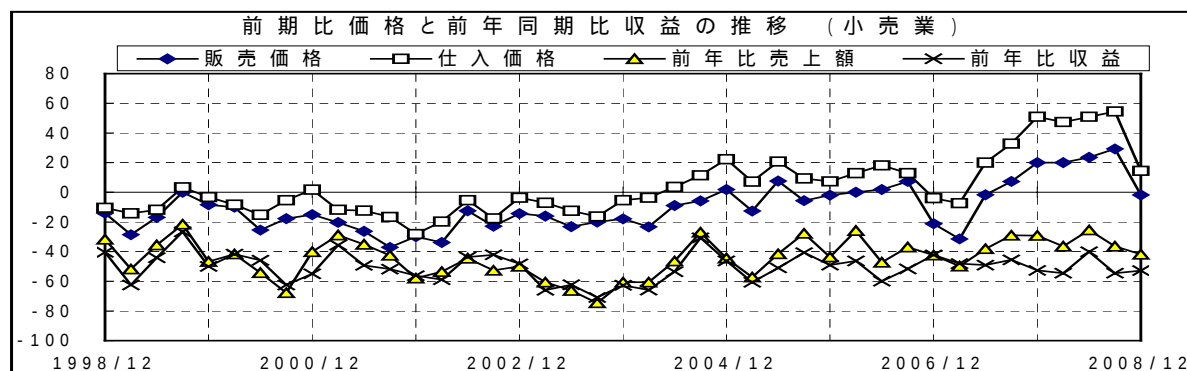


□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
販売価格	23.6	29.2	-1.8	-16.4
仕入価格	50.9	54.5	14.5	-5.5

販売価格判断DI値(1.8)は、前期比プラスからマイナスに転じ 31.0 ポイント低下、価格低下基調が強まっている。また、仕入価格判断DI値(14.5)では、前期比プラス幅が 40.0 ポイント縮小、価格上昇基調が弱まっている。業種別にみると、前期比販売価格判断DI値は衣料品が上昇し

食料品、家電品で低下、仕入価格判断DI値は衣料品、食料品、家電品ともに低下している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	-5.5	0.1	-10.9	-25.5
人手状況	-1.8	-9.0	3.6	9.1

残業時間判断DI値は 10.9 と、残業時間が減少したとする企業割合が増加し、前期比プラスからマイナスに転じ 11.0 ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は 3.6 と、前期比マイナスからプラスに転じ 12.6 ポイント上昇、人手過剰感が強まっている。

□ 設備投資の動き

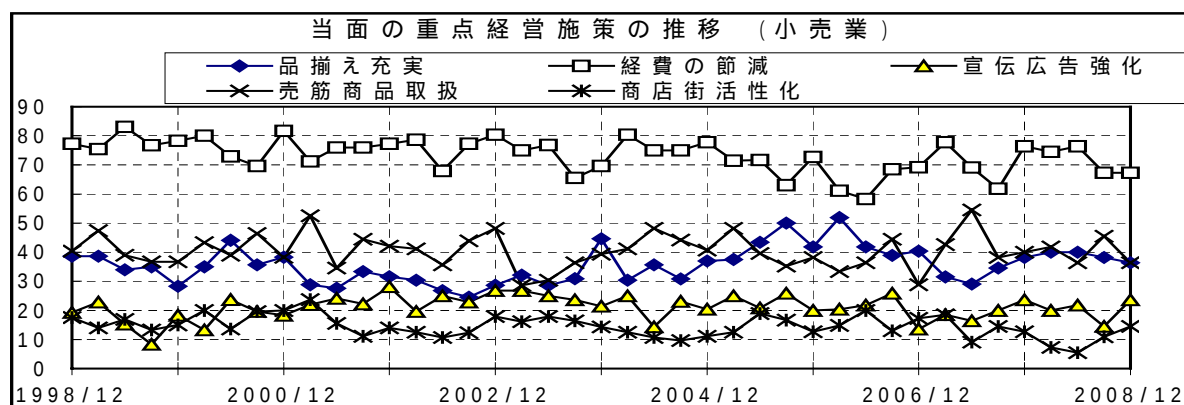
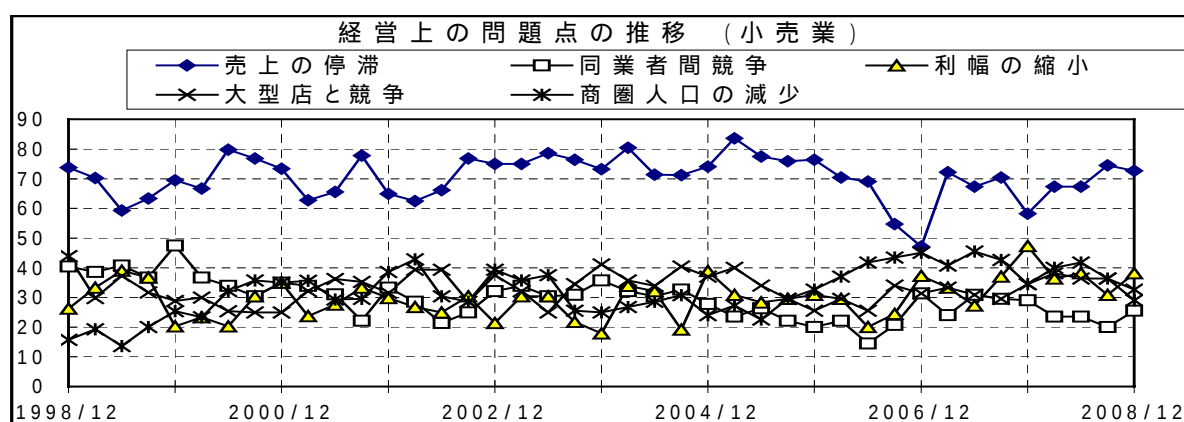
設備投資の充足感を示すD I 値は 10.9 と、前期 (10.9) の不足感が横ばいとなった一方、適正と回答した企業は 85.5% で、前期 (89.1%) から 3.6 ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は 7.3% と、前期 (9.1%) 比 1.8 ポイント低下し、件数で前期の 5 社に対し 4 社の実施となった。また、来期予定では当期比 3 社減の 1 社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ 72.7%、次いで「利幅の縮小」38.2%、「大型店との競争」32.7%、「商圈人口の減少」29.1%の順に続き、前期との比較では、「利幅の縮小」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、衣料品が「売上の停滞」、「商圈人口の減少」、食料品が「売上の停滞」、家電品が「利幅の縮小」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 67.3%、次いで「売れ筋商品取扱」、「品揃えの充実」36.4%、「宣伝広告の強化」23.6%の順となっている。業種別にみると、衣料品が「品揃えの充実」、食料品、家電品が「経費の節減」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期 (21 年 1~3 月期) の予想業況判断D I 値は 65.5 と、今期 (45.5) 実績比 20.0 ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、売上額 65.4 (今期 21.9)、収益 61.8 (今期 27.3) と、今期実績比それぞれ 43.5、34.5 ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I 値は、販売価格が 16.4 (今期 1.8) で今期実績比マイナス幅が拡大し 14.6 ポイント低下、仕入価格が 5.5 (今期 14.5) で今期実績比プラスからマイナスに転じ 20.0 ポイント低下し、それぞれ価格低下基調が強まる見通しとなっている。

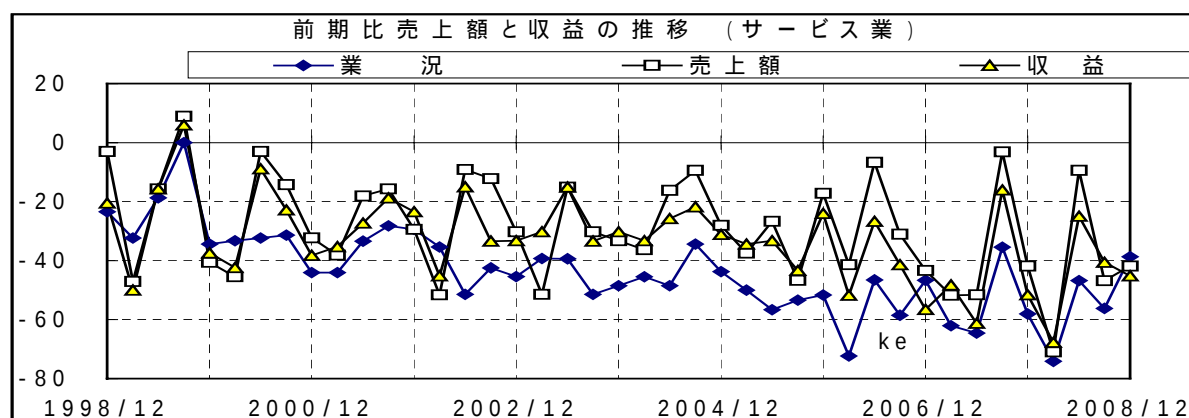
サービス業 31 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
業 況	-46.8	-56.2	-38.7	-58.1
売上額	-9.4	-46.9	-41.9	-51.7
収 益	-25.0	-40.6	-45.2	-51.6

今期の業況判断DI値は 38.7 と、前期比 17.5 ポイント改善し、マイナス幅は過去 10 年間同期の中で 3 番目に小さい水準となった。地区別にみると、前期比浦河、三石、様似、えりも地区が改善し、広尾地区が横ばい、静内地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、売上額が 41.9 で前期比 5.0 ポイント上昇し、収益は 45.2 で前期比 4.6 ポイント低下した。

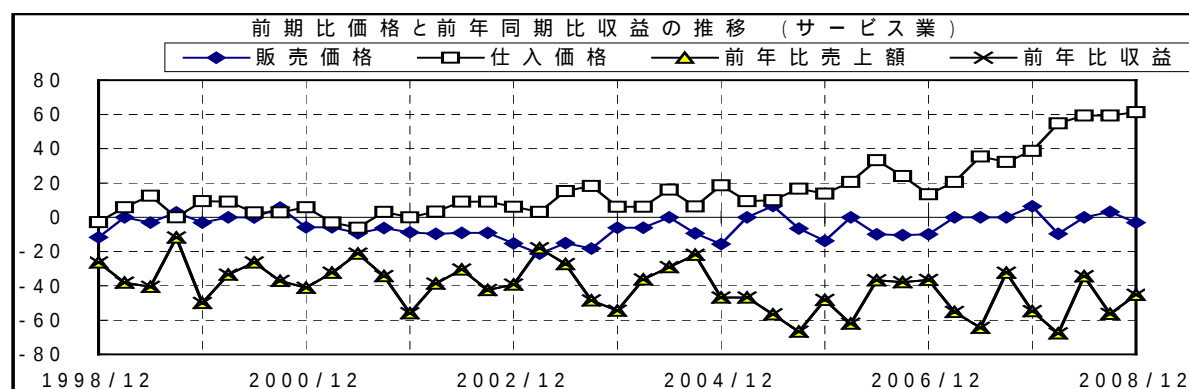


□ 価格面の動きと前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
料金価格	0.0	3.1	-3.2	-3.2
材料価格	59.4	59.3	61.3	32.3

料金価格判断DI値(3.2)は、前期比プラスからマイナスに転じ 6.3 ポイント低下、価格低下基調が強まっている。一方、材料価格判断DI値(61.3)では、前期比プラス幅が 2.0 ポイント拡大、価格上昇基調が強まっている。業種別にみると、前期比料金価格判断DI値は旅館が横ばいで洗濯・理美容、自動車整備で低下、材料価格判断DI値は旅館が

低下し、洗濯・理美容、自動車整備で上昇している。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期実績	1～3 月 期見通し
残業時間	-18.8	-12.6	-6.5	-6.5
人手状況	-6.2	-3.2	-6.5	-9.7

残業時間判断DI値は 6.5 と、残業時間が減少したとする企業割合が減少し、前期比 6.1 ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は 6.5 と、前期比マイナス幅が 3.3 ポイント拡大、人手不足感が強まっている。

□ 設備投資の動き

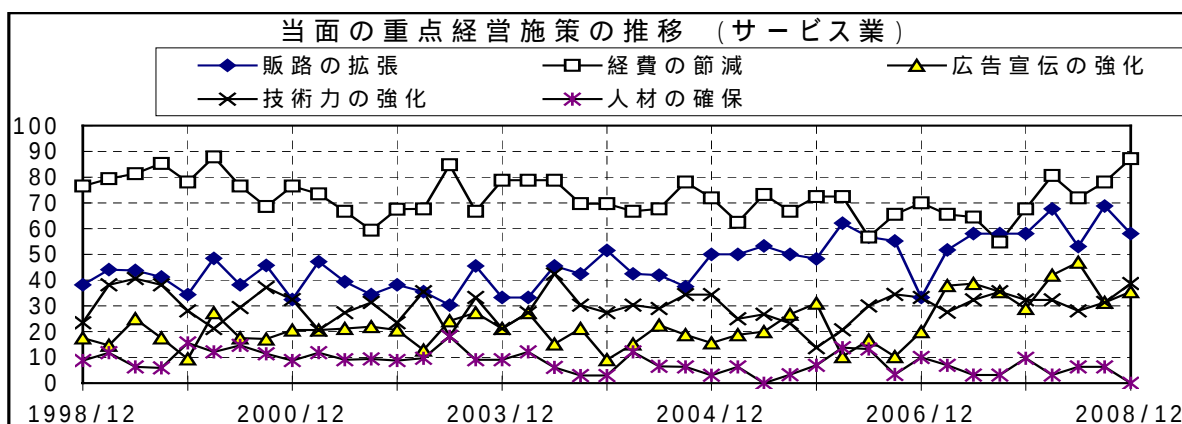
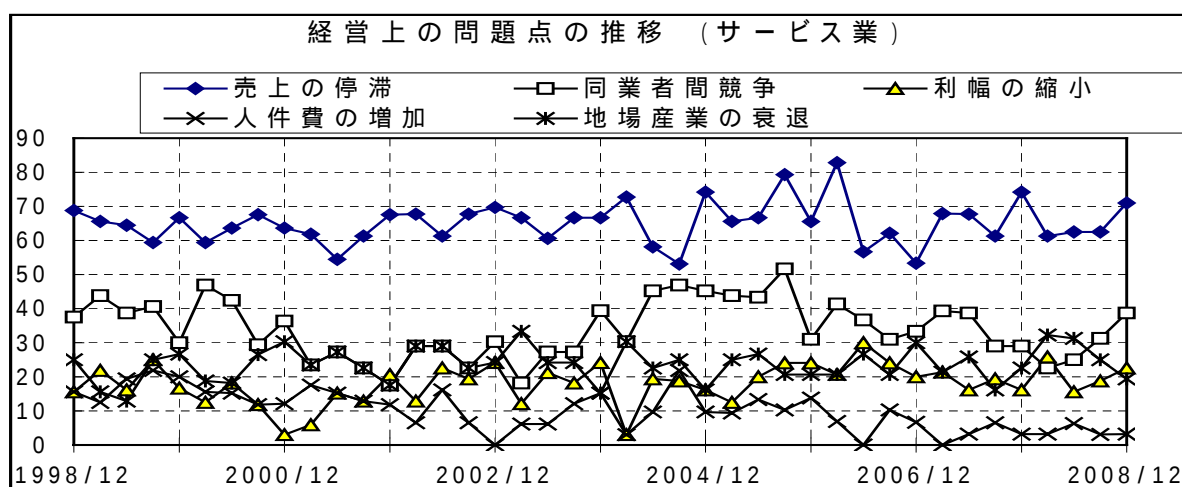
設備投資の充足感を示すD I値は 22.6 と、前期 (9.4) からマイナス幅が 13.2 ポイント拡大し不足感が強まり、適正と回答した企業も 71.0%と、前期 (71.8%) から 0.8 ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は 6.5%と、前期 (15.6%) 比 9.1 ポイント低下し、件数で前期の 5 社に対し 2 社の実施となった。一方、来期予定では当期比 1 社増の 3 社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ 71.0%、次いで「同業者間との競合」38.7%、「商圈人口の減少」35.5%、「材料価格の上昇」29.0%の順に続き、前期との比較では「売上の停滞」、「同業者間との競合」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、旅館が「材料価格の上昇」、洗濯・理美容、自動車整備が「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 87.1%、次いで「販路を広げる」58.1%、「技術力を強化する」38.7%、「宣伝広告の強化」35.5%の順となっている。業種別にみると、旅館、洗濯・理美容、自動車整備ともに「経費の節減」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期 (21 年 1～3 月期) の予想業況判断 D I 値は 58.1 と、今期 (38.7) 実績比 19.4 ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断 D I 値は、売上額 51.7 (今期 41.9)、収益 51.6 (今期 45.2) と、今期実績比それぞれ 9.8、6.4 ポイントの低下見通しとなっている。

予想料金、予想材料価格判断 D I 値は、料金価格が 3.2 (今期 3.2) で今期実績比横ばい見通しにある一方、材料価格は 32.3 (今期 61.3) で今期実績比プラス幅が 29.0 ポイント縮小、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。